

令和6年度 事業報告書

(令和6年1月1日から令和6年 12 月 31 日)

公益財団法人 運動器の健康・日本協会

I. 法人組織の状況

1. 会員の状況(令和6年 12 月末現在)

参加団体会員	46 団体(前年度から増減なし)
参加協力会員	12 団体(前年度から増減なし)
支援会員	8 団体(前年度から増減なし)
特別賛助会員	3 社(前年度から増減なし) エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)
賛助会員(シルバー)	5 社(前年度から 1 社減) 旭化成ファーマ(株)、小野薬品工業(株)、科研製薬(株)、 大正製薬(株)、帝人ファーマ(株)
賛助会員(ブロンズ)	3 社(前年度から 2 社増) ジンマーバイオメット合同会社、中外製薬(株)、(株)八神製作所
賛助会員(一般)	8 社(今年度から新設) (株)キャリア、健康リハビリテーション内田病院、(株)さくら工芸社、 東名ブレース(株)、(有)長野製作所、(株)南江堂、 日本ストライカー(株)、(株)大和義肢製作所

2. 諸会議・会合

評議員会(いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式)

2 月 22 日(木) 第 14 回評議員会 TKP 八重洲

12 月 7 日(土) 臨時評議員会 如水会館

理事会(いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式)

1 月 24 日(水) 第 1 回理事会 如水会館

4 月 14 日(日) 第 2 回理事会 明治記念館

7 月 11 日(木) 第 3 回理事会 如水会館

8 月 14 日(水) 第 4 回理事会 オンライン開催

11 月 21 日(木) 第 5 回理事会 如水会館

業務執行理事会(*は一部 Web 参加)

1 月 18 日(木) 本郷事務局 2 月 9 日(金) 本郷事務局

2 月 22 日(木) 本郷事務局* 3 月 7 日(木) 本郷事務局*

3 月 28 日(木) 本郷事務局 4 月 14 日(日) 明治記念館

5 月 27 日(月) 本郷事務局* 6 月 24 日(月) 本郷事務局

7 月 9 日(火) 本郷事務局* 8 月 27 日(火) オンライン会議

9 月 10 日(火) 学士会館 10 月 22 日(火) 本郷事務局*

11 月 6 日(水) 本郷事務局* 12 月 5 日(木) 本郷事務局*

第 14 回会員連絡協議会(現地出席)

4 月 14 日(日) 明治記念館

4. 人事関係

(1) 評議員の辞任と後任の選任

評議員 1 名から職務上の異動に伴い辞任の申し出があり、郵便によるみなし決議で後任評議員選任が、4 月 25 日付で承認されたので、変更手続きを行った。いずれも前任者の残任期間を委嘱期間とした。

退任評議員 加藤 俊文氏

後任評議員 奈良 隆氏 公益財団法人全国高等学校体育連盟 専務理事

5. 規程の改訂

(1) 役員等旅費交通費

経常収入の減少と諸物価の値上がりで財政状況が厳しく、役員の出席に伴う日当を3千円から2千円に減額する改正を第5回理事会(11月21日開催)で提案、12月7日(土)開催の臨時評議員会でこの改正案が承認された。

役員等旅費規程 (抜粋)

第2章 国内旅費

(日当)

第9条 役員等の日当は、1日当たり2,000円(昼食代を含む。)を支給する。ただし、会議以外の出張で、片道が100km未満の日帰り出張については日当を支給しない。

6. 運動器関連事業申請の許可 記載は前年度 23日に差し替え

令和6年度内、以下の運動器関連事業の後援・転載申請があり許可した。

(1) 6月:帝国製薬(株)季刊誌でイラスト転載(矢吹省司・運藤器疼痛対策委員監修)

(2) 8月:愛知県臨床整形外科医会より「運動器の健康・骨と関節の日」の市民講座に、当協会のロゴマークを使用申請

II. 「公1」運動器の健康推進事業

1. 顕彰事業「運動器の健康・日本賞の公募、表彰」

(1) 令和6(2024)年度入賞者の表彰

令和6(2024)年度の応募数は20件(前年度と同数)。入賞者の表彰式を4月14日(日)に明治記念館で行った。

表彰式は、受賞8件の全受賞者が現地参加で行われた。

また当協会理事、監事、評議員をはじめ参加団体・特別賛助・賛助会員各社など56名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金の目録が贈られた。入賞者は次の通り。(敬称略)なお、今年度は、理事長特別賞は該当者なしとした。

【運動器の健康・日本賞】(100万円)

・白ねぎ作業改善プロジェクト

鳥取県西部農業改良普及所/鳥取大学医学部整形外科/鳥取大学医学部保健学科

【運動器の健康・優秀賞】2件(25万円)

・オンラインDEスポレク教室

一般社団法人こみゆと小平・一般社団法人こみゆステージ

・『生涯元気でご活躍』を応援するまちぐるみの転倒骨折予防プロジェクト

千葉県山武市

【運動器の健康・奨励賞】5件(10万円)

・幼児を対象とした浮き趾調査と足育活動 Tpt ティプト

・ニューズレターから始まる「足育」普及・啓発活動 成田 あす香

・松代膝検診 松代膝検診研究班

・福島県野球検診・メディカル講習会 (一社)福島県理学療法士会/福島県立医科大学整形外科学講座/福島県立医科大学スポーツ医学講座

- ・青少年野球選手に対する医科学サポート: 小学生から高校生まで15年間の取り組みー
京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学(整形外科学教室)

(2) 令和7(2025)年度顕彰事業の公募

運動器の健康・日本賞は、今回で13回目を迎える。例年通り公募することにした。
表彰式は、4月20日(日)に行われる会員連絡協議会開催当日に行う。

公募と審査委員会など関連日程は次の通り。

公募の開始	2024年9月1日(日)
応募締め切り	2025年1月10日(金)
審査委員会	2025年1月21日(火)午後4時
理事会決済	2025年1月23日(木)午後2時
発表	2025年2月10日(月):事前配信8日(土)
表彰式	2025年4月20日(日)14時30分
プレゼン	同上15時
懇親会	同上16時

審査委員として理事から6名、特別賛助会員から3名、報道機関から2名の合計11名を選任した。

入賞者には日本賞(100万円)、優秀賞(25万円)、奨励賞(10万円)、理事長特別賞1件(賞金20万円)をそれぞれ贈る。

2. 広報事業・「運動器の健康に関する広報活動」

担当理事 竹下 克志 担当委員 土原 亜子

(1) 『Moving Web』による広報活動

一般読者にむけて、当協会の疼痛予防委員会や成長期の予防委員会との理学療法士作業部会と協力して、運動器の健康についての情報を記事にした。主なものは以下のとおり。

- ・「スマホとデバイスで健康度がアップ? オンラインリハビリテーション研究結果からわかったこと」大阪行岡医療大学 医療学部 特別教授・三木健司氏
- ・「天気が崩れると痛みが強くなるのはなぜ? 痛みと天気の対処法」愛知医科大学 医学部 疼痛医学講座客員教授 佐藤 純氏
- ・「理学療法士が教える! 腰が痛い40~50代が毎日やるべき3分間リハトレ」
- ・「理学療法士が教える肩こりに効く1日10分ストレッチ」

(2) 『協会ホームページ』による広報活動

今年度からスタートした「認定スクールトレーナー事業」関連内容を告知した。また併せて発行された『理学療法士のための学校における運動器疾患・障害予防教育マニュアル 認定スクールトレーナーの活動の手引き』の紹介を行った。

このほか、ホームページの内容を逐次更新し、当協会の概要および、刊行物等の紹介、国民に当協会の活動内容を広く知ってもらうための記事の充実を図った。

(3) WEBサイトの広報活動のページビュー(PV)数

ホームページアクセス数は、月平均で147,000PVと昨年の3倍に上る閲覧数を記録した。スクールトレーナー関連でアクセス数が増えたと思われる。

一方『Moving Web』では、疾患の多いテーマや年代向けの記事を掲載すると閲覧者が増えた。最もアクセス数の多いテーマは『「股関節が痛い!」40~50代女性に多い変

形性股関節症の症状と治療法について』で、24,500PV を記録した。

3. BJD ロゴマークバッジの頒布

BJD バッジの令和6年度内の配布は、無償が 29 個、残数が少なくなり 1,030 個を追加発注、期末在庫は 1,047 個となった。

4. 子どもの運動器健康推進事業

(1) 学校保健委員会

ア. 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	東京健康リハビリテーション総合研究所
担当理事	内尾 祐司	島根大学医学部整形外科学教室
担当理事	大工谷 新一	北陸大学医療保健学部
委員長	高橋 敏明	元愛媛大学社会共創学部スポーツ健康科学
委員	板倉 尚子	日本女子体育大学健康管理センター
	菊山 直幸	公益財団法人日本中学校体育連盟
	鈴木 享之	長汐病院
	村井 伸子	全国養護教諭連絡協議会
	森原 徹	丸太町リハビリテーションクリニック
	山中 龍宏	緑園こどもクリニック
	渡辺 航太	慶應義塾大学医学部整形外科学教室

イ. 事業の概要

今年度は、学校保健委員会としての活動は「公2」の認定スクールトレーナー事業に全面的にシフトした。

(2) 成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

ア. 担当委員会の構成

担当理事	稲垣 克記	昭和大学医学部
担当理事	吉井 智晴	東京医療学院大学保健医療学部
委員長	渡邊 幹彦	東京城南整形外科スポーツ整形外科
副委員長	坂本 雅昭	高崎健康福祉大学保健医療学部
委員	岩間 徹	潤生会岩間整形外科
	大歳 憲一	おおとし消化器整形外科
	小林 敦郎	順天堂大学医学部附属静岡病院
	田鹿 毅	群馬大学大学院保健学研究科
	田和 一浩	全日本野球協会
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科学教室
	正富 隆	行岡病院
	松浦 哲也	徳島大学リハビリテーション部
	小山 吉男	全日本軟式野球連盟
	森原 徹	丸太町リハビリテーションクリニック
	渡邊 裕之	北里大学医療衛生学部
アドバイザー	高岸 憲二	佐田病院

イ. 委員会開催

- 4月 2日(火) 第1回委員会 Web 会議
- 7月 18日(木) PT関係小委員会
- 10月 15日(火) PT関係小委員会

ウ. 事業の概要

1) 少年野球指導者講習会講師派遣

今年度は全日本軟式野球連盟主催の下記指導者講習会にドクター講師 1名と理学療法士講師 1名と補助講師 2名を派遣した。理学療法士の講師は、講師養成講習会修了者から委嘱した。

年度内の派遣実績は下記の通り。会場での参加者は 290 名。*上段はドクター、下段は理学療法士の講師

- 10月 27日(日) 北海道・北見 受講者 34名
ドクター講師 池 翔太(北海道大学医学部整形外科教室)
理学療法士講師 相澤 広大(株PHYSIT)
- 12月 7日(土) 岐阜県 受講者 49名
ドクター講師 武長 徹也(名古屋市立大学大学院医学研究科)
理学療法士講師 櫻井 健司(かわしま整形外科クリニック)
- 12月 14日(土) 北信越・新潟県 受講者 59名
ドクター講師 山本 智章(新潟リハビリテーション病院)
理学療法士講師 桑原 隆文(富永草野クリニック)
- 12月 14日(土) 近畿・兵庫県 受講者 30名
ドクター講師 美船 泰(神戸大学医学部整形外科学教室)
理学療法士講師 山田 和希(公立浜坂病院リハビリテーション科)
- 12月 14日(土) 中国・山口県 受講者 65名
ドクター講師 油形 公則(山口大学医学部附属リハビリテーション部)
理学療法士講師 藤井 俊充(小郡第一総合病院)
- 12月 15日(日) 四国・香川県 受講者 53名
ドクター講師 川田 明伸(香川大学医学部整形外科)
理学療法士講師 土居 幸輝(高松南整形外科スポーツクリニック)

2) 肩・肘検診基本マニュアルによるモデル検診実施

本委員会で設定した成長期の野球選手のための検診マニュアルに基づいて、年度内に岩手、群馬、京都、大阪、徳島の5府県で実施した。
以上の検診実施5府県に各 10 万円の補助金を支給した。

3) 少年野球指導者講習会講師養成講習会開催の件

全国各地で地域差なく講師が選任できるよう、都道府県の理学療法士会から受講者の推薦協力が得られた。講師養成講習会は、9月 21日(土)、都道府県理学療法士会から推薦された受講生 88名が参加して下記の講座内容で無事に終了した。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 講座1 成長期のスポーツ外傷予防について | 正富 隆委員 |
| 講座2 成長期のスポーツ外傷予防事業の概要 | 坂本 雅昭副委員長 |
| 講座3 実技 | 小林 敦郎委員 |
| 質疑応答 | |

4) 理学療法士講師養成講習会修了者との情報交換会

12月1日(日) 9時～11時 45分 オンライン開催(無料)

講師修了者 65 名が参加、継続事業で、各地域における活動について、各種スポーツ競技のみならず、学校における健康教育活動など多様化している状況が理解された。また、各活動の実施に際しての関係各所との調整や活動の詳細、課題等について意見交換がなされ、今後の各地域における活動に有益な情報提供の機会となった。当日の次第は次の通り。

指定発表テーマに関する活動状況の紹介とディスカッション

- ① 総合司会の渡邊裕之委員による開会に続き、吉井智晴担当理事挨拶
- ② 今井吉郎(全日本軟式野球連盟専務理事)挨拶
- ③ 委員会活動報告 成長期の委員会の活動について坂本委員より報告
- ④ 講師修了者からのアンケート結果報告 小林敦郎委員
- ⑤ 地域における活動報告

座長:日伝 宗平(部会委員)

発表1:青森県:最上 舜久氏

「2023 年度少年野球指導者講習会渡欧北部ロック実施報告」

発表2:大阪府 元脇 周也氏

「学童野球チームへの障害予防活動」

発表3:和歌山県 湯田 智久氏

「小学生スポーツ選手に対する障害予防活動」

座長:福原 隆志(部会委員)

発表4:鳥取県 田村 淳氏

「中学生選手におけるコンディショニング把握の実態」

発表5:東京都 渡邊 祐介氏

「中学校での課外活動の取り組み」

発表6:兵庫県 上原 拓也

「小中学校体育教員を対象とした成長期スポーツ障害予防講座」

- ⑥ 坂本副委員長から全体のまとめ

- ⑦ 吉井担当理事より閉会挨拶

5) 野球障害予防懇話会の開催

今年度は、9月12日(木)に東京で第8回野球障害予防懇話会が開催された。日本スポーツ整形外科学会のシンポジウム形式で、学会参加者も参加可能としたため200名を超える参加者があった。

今回のテーマは、『野球選手の育成』を主に、「一球入魂の普遍性」(早稲田大学野球部・小宮山悟監督)、「精神論と科学性の融合」(早稲田大学スポーツ科学学術院・矢内俊政)、「野球選手の投球障害予防に必要なこと、実践的なこと～理学療法士の視点から～」(運動器ケアしまだ病院・村木孝行)、「Throwing Plane Concept で考える投球障害予防」(医療法人 MSMC みどりクリニック・瀬戸口芳正)などの発表が行われた。

(3) 運動器外傷の救急医療に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事 三上 容司 横浜労災病院 運動器センター

委員長 井口 浩一 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター

委員 黒住 健人 虎の門病院外傷センター

坂本 哲也 公立昭和病院

鈴木 卓 帝京大学医学部附属病院外傷センター
野田 知之 川崎医科大学総合医療センター
宮本 俊之 国立病院機構 長崎医療センター

イ. 委員会開催

4月 7 日(日) 第1回委員会 Web 会議

7月10 日(水) 第2回委員会 Web 会議

ウ. 事業の概要

わが国における運動器外傷に対する救急医療の質の向上と救急外傷センターシステムの構築をめざす活動への支援、協力を目的に、運動器外傷登録制度への支援と協力、わが国における救急外傷センターシステムの必要性に関する啓発活動を目標としてきた。

1) 医療関係者への動画配信の立案

今年度は、昨年のオンライン・シンポジウムに代わって医療関係者向け動画配信を立案、次のテーマで担当委員を決め動画制作を進めている。

i. 外傷診療虎ノ巻 虎の門病院外傷センター 黒住 健人

ii. 頸髄損傷に対する急性期リハビリテーション介入
埼玉医科大学総合医療センター 井口 浩一

iii. 診療看護師(NP)の役割 医師の働き方改革とタスクシェアへの貢献
長崎医療センター 溝上 佳史

2) 関連学会・委員会との連携事業

第 99 回日本整形外科学会総会(2026)のシンポ・パネルに、次のテーマで演者を選任して応募した。

「災害時の整形外傷急性期治療」(座長・井口 浩一、黒住 健人)

演者 黒住 健人(虎の門病院外傷センター)

「災害医療総論」

北田 真平(兵庫県立西宮病院)

「開放骨折」

伊藤 康夫(神戸赤十字病院)

「脊椎外傷」

普久原 朝海(済生会新潟県央基幹病院)

「骨盤外傷」

岡野 博史(広島赤十字・原爆病院)

「Crash 症候群の四肢への対応」

大場 次郎(DMAT 事務局)

「Crash 症候群の全身管理」

(4) 脆弱性骨折予防に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事 萩野 浩 山陰労災病院

委員長 山本 智章 新潟リハビリテーション病院

委員 沖本 信和 沖本クリニック

宮腰 尚久 秋田大学医学部整形外科学講座

山崎 薫 磐田市立総合病院整形外科

イ. 委員会開催

- 4月 4日(木) 第1回委員会 Web 会議
- 6月 27日(木) 第2回委員会 Web 会議
- 7月 22日(月) 第3回委員会 Web 会議

ウ. 事業の概要

1) 『二次骨折予防手帖』の普及活動

昨年度制作した『二次骨折予防手帖』を配布し、広く医療関係者および一般市民への啓発を推進し、二次骨折予防の実現を図った。

年度内の配布状況は次の通り。

無償配布 1部 有償配布 200部 在庫数 94部

2) 医療関係者向けの動画配信

脆弱性骨折予防委員会が本年度の企画として「骨粗鬆症患者の管理を深く学ぶ」をテーマに動画配信を企画、事前に視聴申し込みを受け付け、下記の視聴希望者 1,238 人に配信した。視聴は9月 20日(金)から12月20日(金)まで。

看護師 490(35.8%) 医師 390(28.5%) 理学療法士 207(15.1%)

タイトル『骨粗鬆症の患者管理を深く学ぶ』

① 骨粗鬆症性椎体骨折の鑑別診断とピットフォール

脆弱性骨折予防委員会 委員 宮腰 尚久
(秋田大学大学院整形外科学講座 教授)

② 骨粗鬆症薬剤治療の有害事象を考える

脆弱性骨折予防委員会 委員 沖本 信和
(広島県呉市・沖本クリニック 院長)

③ リハビリテーションにおける栄養

脆弱性骨折予防委員会 委員 田中 雅博
(大阪府・りんくう永山病院整形外科リハビリテーション部長)

(5) 運動器疼痛対策事業

ア. 委員会の構成

担当理事	池内 昌彦	高知大学医学部整形外科教室
委員	井上 真輔	愛知医科大学疼痛医学講座
	園畑 素樹	JCHO 佐賀中部病院
	鉄永 倫子	岡山大学病院運動器疼痛センター
	松平 浩	Tailor Made Back pain Clinic
	三木 健司	大阪行岡医療大学
	矢吹 省司	福島県立医科大学保健科学部

イ. 委員会開催

- 6月 24日(月) 第1回委員会 Web 会議

ウ. 事業の概要

本委員会の事業として、運動器疼痛がもたらす QOL の低下や社会的損失の現状について情報発信し、啓発活動をとおして運動器疼痛対策の重要性について広く一般に周知すること。また、運動器疼痛対策に関するエビデンスを、一般市

民と医療者それぞれが必要とする有用な情報として整理・発信し、運動器の健康づくりに寄与することを目的として以下の事業を実施した。

1) 『Moving Web』に次の原稿を出稿した。

3月 「痛みと天気の対処法」 佐藤 純 愛知医科大学医学部疼痛医学講座

8月 「50歳前後の更年期の手、肘のしびれ」

三木 健司 大阪行岡医療大学医療学部

2) 膝の痛みセルフケア小冊子作成

年度内、以下の編集内容で原案作成、現在最終校正でイラストの調整を行い、発行は次年度とした。

目的:運動器セルフケアを誰もが理解できる分かりやすい資料を提供する

対象:中高齢者向けで漫画風にしてキャラクターが解説する。

配布方法:小冊子 一部無料配布と有料頒布を計画中。

Ⅲ. 「公2」「認定スクールトレーナー制度」資格認定事業

1. 事業推進各種委員会の構成

1) 制度委員会 全般の管理運營業務

委員長 内尾 祐司 理事(島根大学医学部整形外科学)

副委員長 高橋 敏明 試験委員長(元愛媛大学社会共創学部)

同 大工谷新一 資格委員長(北陸大学医療保健学部)

同 吉井 智晴 カリキュラム委員長(東京医療学院大学保健医療学部)

委員 稲垣 克記 理事(昭和大学医学部)

同 衛藤 隆 評議員(医療法人社団敦保恵比寿クリニック)

同 三上 容司 専務理事(独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院)

同 武藤 芳照 業務執行理事(一社・東京健康リハビリテーション総合研究所)

2) カリキュラム委員会 基礎研修の策定、教育研修講演の策定・認可

委員長 吉井 智晴 業務執行理事(東京医療学院大学保健医療学部)

副委員長 板倉 尚子 学校保健委員(日本女子体育大学健康管理センター)

委員 角杉 美恵子 (有明教育芸術短期大学)

同 川本 晃平 (島根大学医学部附属病院)

同 坂本 雅昭 成長期委員(高崎健康福祉大学保健医療学部)

同 中川 和昌 (高崎健康福祉大学保健医療学部)

同 村井 伸子 学校保健委員(全国養護教諭連絡協議会)

同 渡邊 祐介 (東京脊椎クリニック)

3) 資格委員会 受験資格に関する書類審査と更新時の資格審査

委員長 大工谷新一 理事(北陸大学医療保健学部)

副委員長 森原 徹 学校保健委員(丸太町リハビリテーション病院)

委員 鈴木 仁人 (横浜市スポーツ医科学センター)

同 鈴木 享之 学校保健委員(社会医療法人社団大成会)

同 田尻 康人 理事(地方独立行政法人東京都立病院機構広尾病院)

4) 試験委員会 試験問題の作成、試験の実施・運営

委員長 高橋 敏明 学校保健委員長(元愛媛大学社会共創学部)

副委員長 渡邊 裕之 成長期委員(北里大学医療衛生学部)

委員 菊山 直幸 評議員(元公益財団法人日本中学校体育連盟)

- 同 小林 敦郎 成長期委員(順天堂大学医学部附属静岡病院)
- 同 村井 伸子 学校保健委員(全国養護教諭連絡協議会)
- 同 渡辺 航太 学校保健委員(慶応義塾大学医学部)

5) 監理委員会 制度の公平・公正な運用の確認

- 委員長 藤谷 順子 評議員(独立行政法人国立国際医療研究センター病院)
- 委員 齋藤 健司 評議員(国立大学法人筑波大学体育系)
- 同 園山 和夫 評議員(公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会)

2. 委員会の開催 いずれも Web 会議(前年度から継続回数)

1) 制度委員会

- 2月 4 日(日) 第 6 回制度委員会 3月 4 日(月) 第 7 回制度委員会
- 4月 22 日(月) 第 8 回制度委員会 6月 25 日(火) 第 9 回制度委員会
- 8月 9 日(金) 第 10 回制度委員会 10月 7 日(月) 第 11 回制度委員会

2) カリキュラム委員会

- 4月 20 日(土) 第 8 回カリキュラム委員会 9月 7 日(土) 第 9 回カリキュラム委員会

3) 資格委員会

- 9月 11 日(水) 第 5 回資格委員会 12月 12 日(木) 第 6 回資格委員会

4) 試験委員会

- 3月 20 日(水) 第 4 回試験委員会 4月 23 日(火) 第 5 回試験委員会
- 6月 9 日(日) 第 6 回試験委員会 8月 4 日(日) 第 7 回試験委員会
- 9月 3 日(火) 第 8 回試験委員会

5) 監理委員会

- 2月 22 日(木) 第 1 回監理委員会 7月 4 日(木) 第 2 回監理委員会
- 8月 12 日(月・祝) 第 3 回監理委員会

3. 許認可に関する事項

(1) 内閣府公益認定等委員会の公益事業「資格付与」の認定

「認定スクールトレーナー事業」の資格付与申請は、令和 4(2022)年 11 月 22 日(火)開催の第 4 回理事会で、要綱、要領及び細則を設けて理事会の下に制度委員会を設けて制度構築に関する具体的な基礎研修などの準備を始めた。

諸準備が整ったところで、令和 5(2023)年 11 月 21 日(火)開催の第 4 回理事会の審議を経て令和 5(2023)年 12 月 12 日(火)、公益認定等委員会に資格付与の新規事業として「認定スクールトレーナー事業」を申請した。申請内容は以下の通り。

1) 児童生徒等の運動器疾患・障害が学校教育の今日的な課題になっていることに鑑み、その解決に資するために「認定スクールトレーナー制度」を設け、理学療法士が、「医師(学校医・整形外科医等)と協力して、「チーム学校」や「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の一員として、学校の求めに応じて、児童生徒等の運動器の健康増進と運動器疾患・障害の予防に関する教育・啓発や保健指導の支援・協力を行い、もって児童生徒等の心身の健全な成長・発達に寄与する。

2) 本事業は、現代の子どもの身体の二極化(運動過多、体力・運動能力の低下)を改善するための社会的喫緊の課題に資するという公益目的を基本とし、営利を目的としない。

申請後、公益認定等委員会から7回にわたって細部の取り扱いについて質疑があり、ようやく令和6(2024)年1月26日(金)に申請資料完了となった。

その結果、同2月16日(金)に開催された公益認定等委員会常勤委員会で、「付帯条件なし」で認可された。同20日(火)付で、内閣総理大臣・岸田文雄氏名義の認定書が交付された。認定書(府益担第169号)には、「児童生徒等の運動器の健康増進と健全な成長・発達に寄与する担い手の育成」として新たな公益目的事業(2)として明記されていた。

(2) コミュニティ・スクール協力団体に登録

1) 登録に至る経緯

当協会では、「認定スクールトレーナー事業」を創設するにあたり、学校保健事業として連携先の打診を文部科学省スポーツ庁政策課と協議を行っていたところ、文部科学省が、保護者や地域住民等が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール事業」で、地域と学校が連携・協働する取り組みを推進しており、「認定スクールトレーナー事業」との連携の可能性について助言があり、1月23日(火)所管の総合教育政策局地域学習支援課を訪ね、地域学校協働推進室担当者と面談の機会を得て、双方の目的が一致することから、早速翌日に「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動に係る協力団体等リスト」の参加登録申請を提出した。

その後、地域学校協働推進室から、2月22日(木)に令和6年度協力団体リストに登録されることになった旨通知があった。

このリストは、教育分野20団体、スポーツ・文化分野4団体など様々な分野から合計59団体が登録された。スポーツ分野では当協会のほか、(公財)日本スポーツ協会、(非営利)全国ラジオ体操連盟などが登録された。

この協力等団体リストは、3月に全国の都道府県教育委員会に告示された。

2) コミュニティ・スクール協力団体としての協力内容

地域学校協働推進室から当協会としての具体的な協力内容について照会があり、6月24日(月)付で以下のとおり回答した。

① 学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務

部活動指導

学校運営協議会等における部活動の地域連携・地域クラブへの移行に係る協議への参画

協力内容>

- i. 運動器の専門医による成長期のスポーツ外傷・障害の予防教育
子どもの運動・スポーツと身体の二極化への対応、
対象：教職員・部活動指導者・保護者・児童生徒等
- ii. 認定スクールトレーナー(理学療法士)による講話や実技指導
コンディショニングの基本、ストレッチングの仕方、体力テスト関連指導
スポーツに伴うケガ予防のためのトレーニング等
対象：教職員・部活動指導者・保護者・児童生徒等
- iii. 地域の大学・基幹病院、病院・診療所と認定スクールトレーナーが連携して部活動の地域連携移行に協力
運動器の専門医と認定スクールトレーナーが、所属長の承認を得て、部活動の地域受け皿となる団体・組織に協力し、地域で行われる部活動の健全で安全な運営に参画

② 教師の業務だが、負担軽減が可能な業務

学校行事の準備・運営

協力内容>

i. 運動器の専門医による運動器検診の事後措置、運動器機能不全の予防、運動器疾患・障害の早期発見、身体特性と外傷・障害の特徴等の講話

対象：教職員・保護者・児童生徒等

ii. 認定スクールトレーナー(理学療法士)による保健指導

良い姿勢と歩き方の指導、ランドセルやリュックサックの背負い方、ストレッチの基本、運動器検診後の事後措置(関節可動域向上の指導)個別配慮が必要な子どもたちへの支援

3) 協力団体等情報・意見交換会の参加と活動報告発表

12月6日(金)開催された総合教育政策局地域学習推進課主催の協力団体等の情報交換・意見会に当協会から認定スクールトレーナー事業関係委員2名が参加、席上今回創設した「認定スクールトレーナー事業」と、これまで実施してきた学校保健指導の活動状況を紹介した。

4. 令和6(2024)年度 第1回認定スクールトレーナー養成講習会

1) 基礎講習(eラーニング) 30科目

① 受講者 120名

② ファシリテーター担当委員 11名(五輪帯同のためうち1名対面式講義欠席*)
5月20日(月)~7月20日(土) 確認テスト全員達成

③ 認定理学療法士有資格者の一部免除

受講者で、認定理学療法士の資格取得時に、臨床認定カリキュラムの必須と選択科目の内、今回の資格認定講習会カリキュラムと一致する5科目については自己申告を受け、免除した。

2) 対面式講習会

① 実施日 8月3日(土) 12時45分から18時30分

同 4日(日) 8時から15時30分

② 会場 芝浦工業大学豊洲キャンパス 本部棟

③ 主催・協力 主催>公益財団法人運動器の健康・日本協会
協力>公益社団法人日本理学療法士協会

④ 出席者 主催者関係

理事長 松本守雄

専務理事 三上容司

業務執行理事 武藤芳照 竹下克志 吉井智晴

制度委員会 内尾祐司

資格委員会 大工谷新一 田尻康人 鈴木享之

試験委員会 高橋敏明 渡邊裕之 菊山直幸 村井伸子 小林敦郎

カリキュラム委員会 板倉尚子 松浦哲也 角杉美恵子 坂本雅昭 渡邊祐

中川和昌 川本晃平

協力団体 日本理学療法士協会・斉藤秀之会長

芝浦工業大学・山本創太教授

⑤ 講習内容と受講者

受講者数 119名（1名病欠）

講義4科目 レポート提出1科目 演習5科目

演習の内容

- ・グループ：8名で1グループ編成、15グループを班別構成
 - ・演習課題：体力テスト結果を参考に運動指導案を作成し、発表、その後実技演習を実施、4種類の目的のケースを設定
 - イ ソフトボール投げの結果向上
 - ロ 姿勢改善
 - ハ 肥満改善
 - ニ 柔軟性改善
- 対象は、小3、小5、中1、中3の男女、集団指導を設定
- ・履修判定：グループで作成した運動指導案のパワーポイントの成果物と実技演習への参加（履修修了条件には入っていないが、実技演習のアンケート実施中）グループワークへの全員の参加については、ファシリテーターが確認した。

5. 資格認定

1) 資格認定に至る経過

8月4日(日) 認定試験終了後、直ちに試験委員会委員5名による試験結果の検査を実施した。(特別認定者11名を除く)

- | | |
|----------------|---|
| ① 受験者総数 | 119名(1名病欠) |
| ② 規程により合格とみなす者 | 119名(60点以上) |
| ③ 資格認定試験結果 | 最高点(100点) 1名
最低点(76点) 1名 |
| ④ 平均点 | 89.27 |
| ⑤ 標準偏差値 | 4.58 |
| ⑥ 識別指数 | 問18 「運動不足の解決策」 - 0.14377
問35 「子どもの行動変容」 - 0.1437 |

* 下位受験者の不正解は0、上位受験者で1名不正解だったためマイナスとなった。この2問以外でマイナスになった問題はない。

- | | |
|-------------|---|
| ⑦ 全員正解問題 | 16問 |
| ⑧ 正解率の少ない問題 | 問36 「発達性協調運動障害の有病率」 47.5
問43 「新体力テストの項目の間違い」 34.2
上記以外はすべて50%以上 |

- 2) 8月9日(金) オンラインにより制度委員会を開催(内尾委員長以下5名出席)、認定試験合否判定結果(119名)を確認、監理委員会に提示することとした。
- 3) 8月12日(月・祝) オンラインにより第3回監理委員会を開催、制度委員会が提示した第1回養成講習会実施内容並びに認定試験合否判定結果(119名)を確認、承認を得た。
- 4) 8月14日(水) オンラインで第4回理事会を開催(12名出席)、第1回養成講習会実施内容並びに認定試験合否判定結果(119名)を確認、承認した。
- 5) 8月15日(木) 11時に協会HPを通じて資格認定合格者の発表を行った。

6. 「認定スクールトレーナー」2024年度 第1回研修会 実施結果

- 1) 名 称 2024年度「認定スクールトレーナー」第1回研修会
- 2) 主 催 公益財団法人運動器の健康・日本協会
- 3) 協 力 公益社団法人日本理学療法士協会
- 4) 日 時 11月2日(土)13時~16時10分 オンラインで開催(ウェビナー方式) *研修会終了後、動画を作成し11月11日(月)から同30日(土)までオンデマンドで受講者(欠席者を含む)に配信。
- 5) 発信会場 東京都渋谷区・スポーツITソリューション会議室
- 6) 受講者 2024年度第1回認定スクールトレーナー養成講習会・資格認定者(130名、うち欠席につきレポート提出者15名)

7) 次 第

司会> 吉井智晴業務執行理事(カリキュラム委員会委員長)

- ① 開会の挨拶 (公財)運動器の健康・日本協会・松本守雄理事長(5分)
- ② 本日の研修会の目的 「認定スクールトレーナー」制度委員会
内尾祐司委員長(15分)
- ③ 認定スクールトレーナーの行動規範及び最新の情報について
武藤芳照業務執行理事(15分)
- ④ 地域学校協働推進事業: コミュニティ・スクール活動の解説
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 森山義紀氏(35分)
(講義 30分、質疑 5分)

<休憩>10分間

- ⑤ 各地区のモデル事業並びに活動について情報交換
(15分×4人 60分)
東京都・森本 孝則 「これまでの学校保健事業と今後の展望」
兵庫県・庄司 和行 「学校保健事業の開催報告及び今後の展望案について」
島根県・福谷 早耶香 「島根県における学校保健への理学療法士の介入」
沖縄県・玉城 和弥 「沖縄県における学校教諭の理学療法士の認知度と必要性に関する調査」

<休憩>10分間

- ⑥ 所定の単位取得と申請方法(更新資格更新手続き)
「認定スクールトレーナー」資格委員会 大工谷新一委員長(15分)
- ⑦ 総合討議 (15分)
登壇者 内尾委員長 武藤業務執行理事 吉井業務執行理事
- ⑧ 閉会の挨拶 (公財)運動器の健康・日本協会・三上容司専務理事

以 上